



クビナガリュウ
ホッピー

ホッピーだより

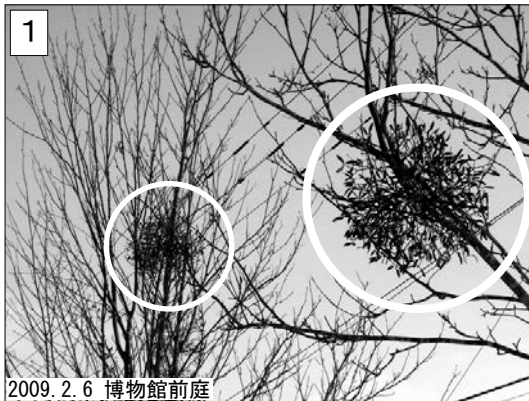
第292号

平成21年3月1日 (2009/3/1)

むかわ町立穂別博物館 054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別80-6 0145-45-3141
http://www10.plala.or.jp/mukawa/soshiki/hakubutsukan/

とりすき 鳥の巣？...いいえ、木です

その名は、ヤドリギ



1

鳥の巣のように見える、この丸いもの。木だって知っていました？
ヤドリギという木です。



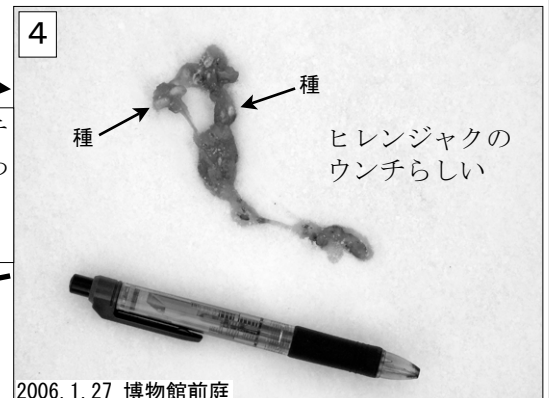
2

近づいてよく見ると、枝と葉があって、赤い実がなっていました。
(黄色もあります)



3

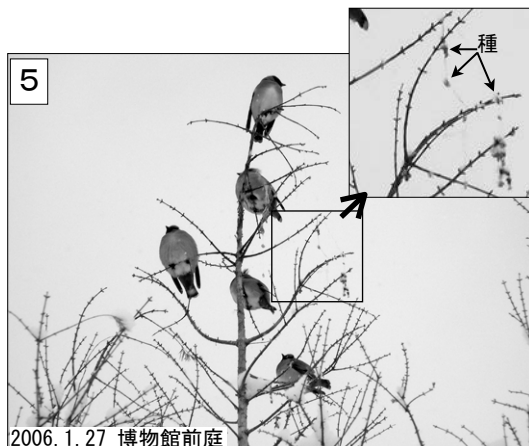
その実は、このように鳥に食べられます (これは違う木の実を食べています)。
モデル：ヒレンジャク



4

種 ← 種
ヒレンジャクのウンチらしい

種は消化されずにウンチとなりますが、そのまわりはネバネバしていて、丈夫な糸もあります。



5

そのため、ウンチとして出された種は、糸やネバネバで木の枝とかに引っかかってくっつきます。



6

うまく木にくっつくと、芽が出て、やがて大きく育ちます。

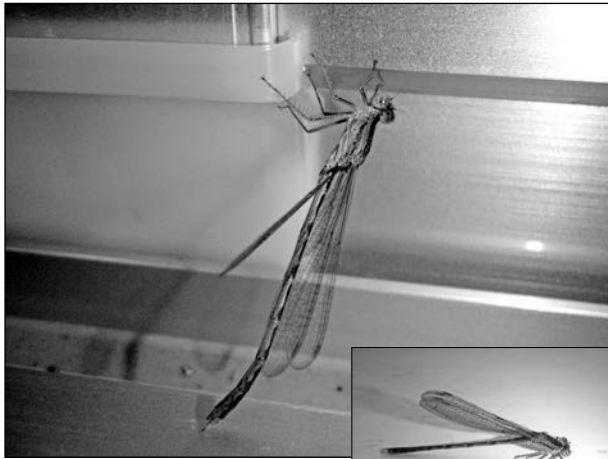
情報提供・協力：
日月 伸 (穂別総合支所)
穂別地球体験館サイエンスガイド

(1へもどる)

2009. 2. 12 ほべつ道民の森

ヤドリギは漢字で「寄生木」。冬でも緑色の葉があります。他の植物と同じように光合成をして自分でも栄養を作りますが、くっついた木からも養分をもらっているそうです。このように他から養分をもらうことを「寄生」と言います。他の木に取りつくために、鳥をうまく利用していますね。植物も動物も、生きのびるために様々な工夫をしています。(学芸員 桜井)

オツネトンボ、博物館で発見



2009. 2. 13 かせき学習館



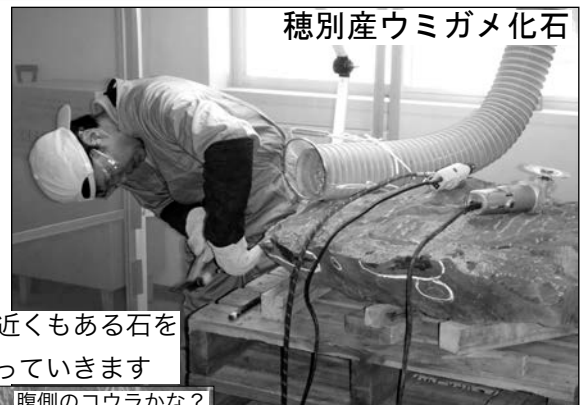
北海道新聞（2/19）で紹介された、博物館で見つけたオツネトンボ（別名、神様トンボ）です。黒松内にもいたようです（同、2/13）。大きさ3.7cmほど。体は茶色で、背中にさらに濃い点があります。止まる時は羽根を閉じます。アオイトトンボの仲間です。トンボの姿（成虫）で冬を越し、春に卵を産むそうです。しばらく暖かい日が続いたので、外を飛んでいるうちに入りこんでしまったのでしょうか。卵で越したり、成虫で越したり。北海道の冬の過ごし方は、虫によって様々です。

ただいま、クリーニング中

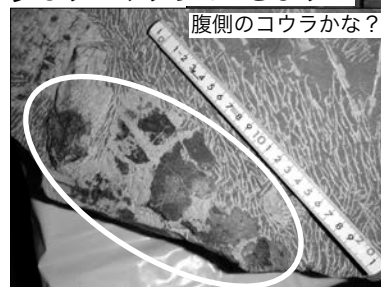


平取町で発見されたヒゲクジラの頭の骨の化石。頭の後ろの部分で、見つかった長さは56cmほど。約1,600万年前の地層と思われます。穂別でも同じ時代から、たくさんのクジラの化石やデスモスチルスが見つっています。となり町のすぐ近い場所なので、穂別の化石を調べる手がかりにもなることでしょう。

寄贈：佐藤 進（日高町富川）



大きさが1m近くもある石を少しずつ削っていきます



腹側のコウラかな？

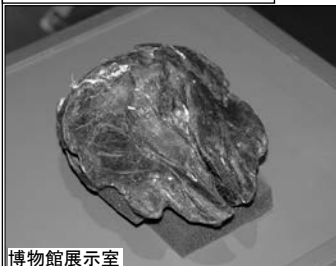


二枚貝の化石も出てきました

穂別川で発見されたウミガメの化石。コウラが出てきましたが、どのような向きで入っているのか確かめながら石を削っています。全体が見えてくるのは、まだしばらく先です。約7,000万年前。

発見：打本香織（穂別博物館）

むかわの化石や生き物



博物館展示室

セントリオドン・ホベツ（化石）

穂別で見つかったイルカの頭の骨の化石。約1,600万年前。穂別ではたくさんのクジラ化石が見つっているが、体の一部しかないことが多い。この標本はめずらしく頭の骨の大部分が見つかり、1994年に新種の化石イルカとして発表されました。

2009年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3月のこよみ

・3月は毎週月曜日が休館です

■：休館日

植物は自分では動けないので、鳥や動物、昆虫に手伝ってもらい、種をつくったり、生活場所を広げます。逆に動物たちは、植物から食べ物や住む場所をもらっています。植物と動物は、おたがいに助け合いながら進化を続けてきました。（さ）